HLA モノクローナル抗体による血小板の HLA 抗原の解析 —酵素抗体法による HLA-A, B interlocus 抗原を中心に—

能勢 義介   荒木 延夫   山平 広治   清水 準也

兵庫県赤十字血液センター

佐藤 薫   中辻 孝子   辻 公美

東海大学医学部移植学教室

小 野 一 男

兵庫県衛生研究所微生物

(昭和62年 6 月22日受付)

ANALYSES OF HLA ANTIGENS, ESPECIALLY HLA-A AND -B INTERLOCUS ANTIGEN, ON PLATELETS WITH MONOCLONAL ANTIBODIES AND ELISA ASSAY

Yoshisuke Nose, Nobuo Araki, Hiroji Yamahira and Junya Shimizu

Hyogo Red Cross Blood Center

Kaoru Sato, Takako Nakatsuji and Kimiyoshi Tsuji

Department of Transplantation, Tokai University School of Medicine

Kazuo Ono

Division of Microbiology, Public Health Institute of Hyogo Prefecture

HLA class I monomorphic monoclonal antibody Yu-3-20A, HLA class II monomorphic monoclonal antibody TOK39-4, and HLA-A and -B interlocus monoclonal antibody TOK45-3A were used in the ELISA assay of platelets. We used 9 samples from the A24-negative and Bw4-negative, 15 samples from the A24-positive, 10 samples from the Bw4-positive, and 18 samples from the A24-positive and Bw4-positive individuals. The monoclonal antibody Yu-3-20A showed the identical positive reactivity with all of the platelets used. The monoclonal antibody TOK39-4 showed no reactivity with any of the platelets. The monoclonal antibody TOK45-3A showed positive reaction with an O.D. value of 0.741 ± 0.271 with 25 samples of the platelets possessing either A24 or Bw4. It also showed reaction with an O.D. value of 1.535 ± 0.253 with the platelets possessing both of the A24 and Bw4. This results indicate that the reactivity with HLA-A and -B interlocus monoclonal antibody correlates with the HLA phenotype of platelets.

はじめに

血小板膜に血液型¹⁾, HLA²⁾, 血小板特異抗原³⁾等の同種抗原が存在することはすでに知られており, 特に血液型の ABO 式抗原⁴⁾, HLA 抗原⁵⁾は血漿中の遊離抗原が血小板に吸着したものと考えられている。

血小板の HLA 抗原は, HLA クラス I 抗原の HLA-A, B, C 抗原が存在し, HLA 特異性により抗原量に差があることが推測されている。

そこで今回, HLA-A と B 抗原に association

する HLA-A, B interlocus モノクローナル抗体 (Moab) を使用し, 血小板膜の HLA-A, B interlocus 抗原について検討した。

方 法

HLA Moab は, 当センターで作製した HLA-9 と Bw4 に association する HLA-A, B interlocus Moab の TOK45-3A⁶⁾, HLA クラス I monomorphic Moab の Yu3-20A⁷⁾, HLA クラス II monomorphic Moab の TOK39-4⁸⁾ の 3 種を使用した。血小板は A24, Bw4 陰性血小板 9 種, A24 陽性血小

(HLA クラス II monomorphic) 3 種の HLA Moab と血小板の反応性を酵素抗体法により解析するために, HLA Moab の濃度を検討した. HLA Moab 10倍濃度で TOK45-3A が1.831, Yu3-20A が1.032の1.0以上の OD 値を示し, 以後の実験はすべて10倍濃度でおこなった.

図1 酵素抗体法による Moab 濃度と血小板の反応性

Yu3-20A, TOK39-4 Moab と A24または Bw4 陽性血小板, A24と Bw4陽性血小板の酵素抗体法による反応性を図2に示した. Yu3-20A Moab は, A24または Bw4陽性血小板の18種が 0.819 ± 0.320 , A24と Bw4陽性血小板の13種が 0.795 ± 0.319 の反応を示し, HLA クラス I monomorphic Moab では差は認めなかった. HLA クラス II monomorphic Moab の TOK 39-4は, A24または Bw4陽性血小板の18種が, 0.071 ± 0.034 , A24と Bw4陽性血小板13種が 0.060 ± 0.036 の陰性反応を示し, 血小板に HLA クラス II 抗原の存在を否定した.

次に, HLA-A, B interlocus Moab の TOK 45-3A と A24 と Bw4 陰性血小板, A24 または Bw4陽性血小板, A24と Bw4陽性血小板の反応性を酵素抗体法で検討した(図3). A24と Bw4陽性血小板の9種は 0.077 ± 0.65 の陰性反応を示した. そして A24または Bw4陽性血小板の25種は 0.741 ± 0.271 , A24と Bw4陽性血小板の18種は 1.535 ± 0.253 を示し, A24と Bw4の両者が陽性の血小板は, A24または Bw4のいずれか陽性の血小板に対し2倍の OD 値を示し, HLA phenotype と反応性に相関を認めた.

さらに A24陽性血小板, Bw4陽性血小板, A24と

図2 酵素抗体法による血小板 Yu 3-20A, TOK 45-3A の反応性

図3 酵素抗体法による血小板と TOK 45-3A の反応性(1)

Bw4陽性血小板, A24ホモ接合体と Bw4陽性もしくは A24と Bw4ホモ接合体陽性血小板にて, HLA-A, B 抗原の HLA phenotype による反応性を検討した(図4). そして A24陽性血小板の15種が 0.666 ± 0.281 , Bw4陽性血小板の10種が 0.825 ± 0.241 , A24と Bw4陽性血小板の10種が 1.429 ± 0.300 , A24ホモ接合体と Bw4陽性血小板または, A24と Bw4ホモ接合体陽性血小板の8種が 1.641 ± 0.205 の反応性を示し, Bw4陽性血小板は A24陽性血小板に対し, また A24ホモ接合体と Bw4もしくは A24と Bw4ホモ接合体陽性血小板は, A24と Bw4陽性血小板に対し反応性が高い傾向を示した.

考 察

HLA-A と B 抗原に association する HLA-A, B interlocus 抗原は, A32 と B27, Aw19 と B40, Bw41, Aw33 と B8, A9 と Bw4, A2 と B16, A2 と B17等が報告されている⁹⁾.

我々は独自に作製した A9 と Bw4 に association する HLA-A, B interlocus Moab の TOK 45-3A を報告した⁶⁾. さらに第6回日本赤十字血液センターHLA ワークショップで, TOK45-3A

図4 酵素抗体法による血小板と TOK 45-3A の反応性(2)

が A32 にも反応することを確認した¹⁰⁾. そして TOK45-3A と血小板のフローサイトメトリ解析より, HLA-A, B interlocus 抗原が血小板に存在することを報告した¹¹⁾. そして今回酵素抗体法により, 血小板の HLA-A, B interlocus 抗原の抗原量を, TOK45-3A と血小板の反応性より検討した. そして A24 または Bw4 を単独に有する血小板に対し, A24 と Bw4 の両者を有した血小板は2倍の反応を示し, 血小板が有する HLA phenotype と反応性が相関する結果を得た. このことは, TOK 45-3A が A24 と Bw4 に共通に存在するエピトープと反応する Moab であることを強く示唆したものと考えられる.

血小板膜の HLA 抗原は, 血漿中の遊離 HLA 抗原が吸着したものと考えられており, HLA 特異性により遊離 HLA 抗原の量に差があることがわかっている¹²⁾. 特に A9 は血漿中の HLA 抗原が多いとの報告から, A9 と交叉する HLA-A, B interlocus 抗原も血漿中に多く存在し, かつ血小板膜にも多く吸着されていることが予想され, そして今回の酵素抗体法で十分測定可能であった.

血漿中の HLA 抗原の生物学的意義は不明であるが, 成分輸血特に血小板輸血で, 血小板膜の血漿中の吸着した不適合 HLA 抗原により, 患者血

清中に HLA 抗体が産生され臨床的に血小板輸血無効状態に陥り、これらの防止、改善をおこなうためにも血小板膜の HLA 抗原解析は意義がある。そして今回、血小板が有する HLA phenotype と HLA 抗体との反応に相関を示したことは、血小板が反応する HLA 抗原を 1 種有したときより、2 種有したときの方がより高い反応がおきることを示したものである。特に 2 種以上の特異性を有した A9 と Bw4 に association する HLA-A, B interlocus 抗体が血小板成分輸血で産生されることは十分に予想され、当センターでもこれらの抗体により、血小板輸血無効状態に陥った患者 2 例を経験している。

今後血小板成分輸血に際し、HLA-A, B interlocus 抗原を考慮した HLA 適合血小板輸血の実施が重要と考える。

結 語

HLA-A9 と Bw4 に association する HLA-A, B interlocus Moab (TOK45-3A) を使用し、酵素抗体法により血小板膜の HLA-A, B interlocus 抗原を解析した。TOK45-3A と A24 または Bw4 陽性血小板の 25 種が 0.741 ± 0.271 を示したのに対し、A24 と Bw4 陽性血小板の 18 種が 1.535 ± 0.253 の 2 倍の OD 値を示し、血小板が有した HLA phenotype と反応性に相関を認めた。

文 献

- 1) Pirofsky, B. and Rosner, E.R.: DTT test: A new method to differentiate IgM and IgG erythrocyte antibodies. *Vox Sang.*, 27: 480-488, 1974.
- 2) van Leeuwen, A., Eernisse, J.G. and van Rood, J.J.: A new leucocyte group five. *Vox Sang.*, 9: 431-446, 1964.
- 3) van Loghem, J.J., Dorfmeijer, N., van der Hart, M. and Schreuder, F.: Serological and genetic studies on a platelet antigen (Zw). *Vox Sang.*, 4: 161-169, 1959.
- 4) Lewis, J.H., Draude, J. and Kuhns, W.J.: Coating of "O" platelets with A and B group substances. *Vox Sang.*, 5: 434-441, 1960.
- 5) Lalezari, P. and Driscoll, A.M.: Ability of thrombocytes to acquire HLA specificity from plasma. *Blood*, 59: 167-170, 1982.
- 6) 能勢義介, 荒木延夫, 山平広治, 今井英世, 佐藤薫, 中辻孝子, 辻 公美, 小野一男: HLA-A9(A23, A24) と Bw4 に association する HLA-A, B interlocus モノクローナル抗体について. *日本輸血学会雑誌*, 33: 263-267, 1987.
- 7) 能勢義介, 荒木延夫, 山平広治, 今井英世, 小林信昌, 渡辺克仁, 小野一男: 血小板を免疫原としたモノクローナル抗体による血小板膜抗原の解析—HLA, 血小板, 赤血球モノクローナル抗体の作製—. *血液事業*, 9: 431-436, 1986.
- 8) 岩崎辰夫, 安東民衛, 市川かおる, 保井孝太郎: 単クローン抗体, ハイブリドーマと ELISA. 講談社, 東京, 1984.
- 9) Richiardi, P., Cambon-Thomsen, A. and Menicucci, A.: HLA-A, B Interlocus Specificities. *Histocompatibility Testing 1984*, ed. by Albert, E.D., Springer-Verlag, Berlin, Heidelberg, New York, Tokyo, 1984.
- 10) 荒木延夫, 能勢義介, 山平広治, 今井英世: HLA class I モノクローナル抗体の解析, 第 6 回日本赤十字血液センター HLA ワークショップ報告. *血液事業*, 印刷中.
- 11) Nose, Y., Araki, N., Yamahira, H., Imai, H., Sato, K., Nakatsuji, T. and Tsuji, K.: Study on HLA-A and B interlocus specificity (A9 and Bw4) detected by monoclonal antibody. *HLA in Asia-Oceania 1986*, ed. by Aizawa, M., Hokkaido University, Sapporo, 1986.
- 12) 辻 公美, 渋谷恵子, 井上博雄: 血漿中遊離 HLA 抗原の測定方法とその生物学的意義. *移植*, 14: 171-176, 1979.